

平成30年度 文京区立金富小学校 授業改善推進プラン

図画工作

学年	指導上の成果と課題の分析→	授業改善の具体的な方策
1年	<ul style="list-style-type: none"> ・楽しみながら活動に取り組んでいる児童がほとんどだが、作業開始までに時間がかかったり、途中で意欲が持続しなかったりする児童もいる。 【関心・意欲・態度】 ・はさみやのり、クレヨン・パスなどの用具を、自己流に使う児童がいる。手先を器用に動かすことが難しい児童がおり、技能に個人差がある。 【技能】 	<ul style="list-style-type: none"> ・作品の見本を提示したり、活動の途中で、互いの作品を見合う時間をとったりし、作品の完成イメージを膨らませ、製作に取り組ませるようにする。 ・用具の正しい使い方を、丁寧に指導する。図工の授業だけではなく、日頃から、自分の手を使って作業する活動を多く取り入れ、手先を動かすことに慣れさせていく。
2年	<ul style="list-style-type: none"> ・自分が作りたいものを楽しみながら活動に取り組んでいる児童がほとんどだが、活動をするまでの準備に時間がかかる児童もいる。 【関心・意欲・態度】 ・絵の具の使い方、道具の扱い方を指導し、きちんと使えるように指導する必要がある。また、技能に個人差がある。 【技能】 	<ul style="list-style-type: none"> ・作品の見本や造形遊びの過程を掲示することで児童が作品の完成イメージをもち、見通しをもって意欲的に制作に取り組めるようにする。 ・道具の扱い方については、毎時間確認することで定着を図る。絵の具の使い方に関しては、全体指導と個別指導とを繰り返し行うことで身に着けさせる。
3年	<ul style="list-style-type: none"> ・片付けはクラスで協力する姿勢がある。 【関心・意欲・態度】 ・自由で豊かな発想をする児童が多いが、題材説明の理解や集中して製作する姿勢に差がある。 【発想】 ・意欲が高く、楽しんで取り組む児童が多いが、はさみなど道具の使い方や描写力などの技能面で個人差が大きく、課題を抱える児童がいる。 【技能】 	<ul style="list-style-type: none"> ・維持できるよう、分担表で具体的な指示を出す。 ・ICT機器を活用し、造形遊びの方法を図解して説明したり、参考作品を見せたりして、視覚的に伝え、見通しをもって造形遊びができるようにする。 ・教師の模範や図解を示して道具の正しい使い方をおさえた上で個別指導する。

<p>4年</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・片付けはクラスで協力する姿勢がある。 【関心・意欲・態度】 ・のびのびとした豊かな発想をする児童が多いが、発想に時間がかかる児童もいる。 【発想】 ・意欲が高く、楽しんで表現できる児童が多いが、はさみの使い方など技能面で個人差がある。 【技能】 ・鑑賞では友達の作品のよさを感じることができ、言葉で表す力が十分ではない。 【鑑賞】 	<ul style="list-style-type: none"> ・維持できるよう、分担表で具体的な指示を出す。 ・発想が広がるような題材や導入を工夫したり、資料や参考作品・工夫例などを見せる事で発想のきっかけになるようにする。 ・ICT機器を活用したり、教師の模範や図解を示したりして道具の正しい使い方をおさえた上で個別指導する。 ・作品カードの鑑賞活動を取り入れる。ゲーム感覚で友達が表現したことを予想することによって、自他の感性の違いや色や形が与える印象を考える。その後、文型を提示し、想いを当てはめて書けるように指導する。
<p>5年</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・意欲が高く、楽しんで表現できる児童が多い 片付けはクラスで協力する姿勢がある。 【関心・意欲・態度】 ・造形的な創造活動のテーマを決められない児童や最後まで集中して取り組めない児童がいる。【発想】 ・鑑賞では友達の作品のよさを感じることができ、言葉で表す力が十分ではない。 【鑑賞】 	<ul style="list-style-type: none"> ・維持できるよう、分担表で具体的な指示を出す。 ・ICT機器を活用し、造形方法の図解や参考作品の提示により造形の過程やゴールを視覚的に伝える。制作の合間に鑑賞活動を取り入れ、互いのよさを知る機会を作る。 ・「みる」視点を明確にして鑑賞活動を行う。文型を提示し、自分の想いを当てはめて書けるように指導する。
<p>6年</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・全体的に意欲は高くなってきたが、絵画の分野に苦手意識がある児童が見られる。協力して片付けができず、時間がかかる。 【関心・意欲・態度】 ・題材説明の理解に個人差があり、造形的な創造活動の深まりにばらつきがある。 【発想】 ・用具の扱いなどの技能面で課題を抱える児童がいる。 【技能】 ・鑑賞では作品から感じたよさや印象を言葉で表す力が十分ではない。 【鑑賞】 	<ul style="list-style-type: none"> ・参考になる作品や写真などの提示、既習の技法を確認する時間の設定、実際に教員が描いて見せるなど発想を支援する。分担表で児童の仕事を割り振り、個々の責任を明確にする。 ・題材のポイントを理解させるために、制作の過程や工夫すべき点を明確に伝える。また、活動が深まるような材料探しができるよう、教室環境を整える。 ・ICT機器を活用したり、教師の模範や図解を示したりして道具の正しい使い方をおさえた上で個別指導する。 ・「みる」視点を明確にして鑑賞活動を行う。学習鑑賞カードの文型を提示し、自分の想いを当てはめて書けるように指導する。

